

# 連携医療機関のご紹介

今回は、人との「つながり」を大切に、専門の循環器をはじめ、広く生活習慣病など内科一般の診療をされている「おりた内科循環器クリニック」折田裕一先生です。



折田院長

## おりた内科循環器クリニック

〒734-0053  
広島市南区青崎1丁目2-14  
YMFG オールヘルスケアタウン 3F  
電話 / 082-890-8150  
院長 / 折田 裕一  
診療科目 / 一般内科・循環器科



YMFG オールヘルスケアタウン外観



待合室

### ○医師を志したきっかけ、開業された経緯について教えてください。

2021年10月に、ここ南区青崎のYMFG オールヘルスケアタウンにて開業しました。もともとは南区荒神町地区で生まれ育ちまして、クリニックから至近にあるマツダ病院にも勤務歴があり、南区周辺は公私とも慣れ親しんだ地域です。医師を目指したきっかけは、祖父は軍医で復員後に荒神町で内科・小児科医院を営み、父も内科医で県病院に定年退職まで勤めておりました。ふたりが患者さんや地域のために頑張る姿を見て育ったことが大きいと思います。循環器内科を専門としたのは、代々内科医ではありましたが、私が医学生のごころは救急救命分野に強い関心がありました。研修医のごころには急性心筋梗塞症などの緊急性の高い疾患に対するカテーテル治療の技術が飛躍的に進歩している時代でしたので、「内科医でもここまで劇的かつ短時間で患者さんを良くできるのか!」と感銘を受け内科の中でも救急救命の要素の濃い循環器内科の道へ進みました。

### ○診療で大切にされていることを教えてください。

開業前は、大病院ではなく広島県内の中・小規模病院や中山間地域の病院に勤務してきました。それは患者さんや地域に近い立ち位置で、なるべくその地域の病院の方針に則した診療を心がける、という思いがあったからです。開業した後でもクリニックで行うべき検査・治療はなるべく当院で完結し、大病院には専門的な高度な検査や治療をお願いするなどクリニックとしての役割を担うことを重視しています。さらに、循環器内科医ですので胸痛を訴える患者さんはどんなに忙しくても診るよう心がけています。そして地域で必要とされる医療サービスはすぐに対応できるようにしています。たとえば開業時はコロナ蔓延のさなかで

したが換気システムを備えた感染症診察室や前室を作成し、発熱患者さんを一人でも多く診られるようにしました。

医師として専門性を極める道をいくのが、一般・総合内科医の道っていくかという岐路もありましたが、患者さんや地域に深く関わることを主と考え、後者を選びました。病院勤務の時は悪くなった患者さんを救急で受け入れる事が多く、心筋梗塞を発症した方なども沢山診療してまいりました。そのような経験から悪くなる前（発症する前）に予防する事の大切さを痛感しました。そのためには生活習慣の改善がとても大切です。生活習慣病をお持ちの患者さんには治療を無理強いせず、相手に合わせた丁寧な説明を心がけ、しっかりご理解いただこうと心がけています。喫煙者の方にはもちろん禁煙をお勧めしますが、すぐに禁煙できるものではありません。そういった方にも時間をかけて禁煙をサポートしていきます。色々な患者さんがおられますので、患者さんの生活歴や考え方を尊重しながら改善できることを一緒に探して励ましてあげられるような、人との「つながり」を大切に診療を行っています。

### ○県病院はどんなところですか。

大変心強い存在です。救急の依頼にもかかわらずいつもスムーズに受け入れていただけていて、感謝しております。また、返書の内容がどの診療科も大変丁寧であることにも驚いています。

#### 【取材後記】

人との「つながり」を重視されている折田先生。循環器内科専門医としてだけでなく、生活習慣病への対応の必要性も多く語っていただき、先生にとって患者さんという存在は、「病気の人」としてだけでなく「生活している人」として、対話そのものを重視されていることが伝わってきました。

# もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818 (代)  
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。



# 朝

## 新春を迎え

### 謹んでお慶びを 申し上げます

昨年元旦早々に能登半島地震が発生し、そして9月末には記録的な大雨が能登半島を襲い、能登地方は大きな災害に見舞われました。ここ数年、地球温暖化の影響による異常気象が全世界を襲い、大災害が頻発しています。今年は何とこのような災害が起こらないことを切に願っております。

さて、2025年4月にはJR広島病院、県立安芸津病院とともに独立行政法人としてのスタートを切ります。そして2030年には、新法人と中電病院そしてHIPRACが統合し、新病院の開設を迎える予定です。一方、県病院の跡地利用についてはまだ決まっていませんが、これから検討されていくものと思います。

全国トップレベルの高水準かつ安全な医療を提供し、医療人材の育成、そして住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる広島県の実現に貢献できる病院を目指してまいりますので、よろしくお願いたします。

最後に、皆さんにとりまして、今年一年がより一層充実した年となりますことを祈念しております。



令和七年 元旦

県立広島病院 院長  
板本 敏行

## 県立広島病院からのお知らせ

### 1月のがんサロン

開催日時 令和7年1月22日(水) 14:00~15:00  
場所 新東棟2階 研修室及びオンライン  
テーマ 『病気との向き合い方』  
～情報を味方にして患者力を身につけよう～  
講師 広島県がんピアサポーター/中司 聖子さん  
対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族  
当院での受診歴は問いません  
問合せ先 がん相談支援センター ☎082-256-3561  
詳しくは当院HPをご参照ください

### がん医療従事者研修会

開催日時 令和7年1月14日(火) 18:00~19:30  
場所 県立広島病院 中央棟2階 講堂 及び ZOOM 開催  
テーマ 『神経内分泌腫瘍の治療最前線』  
演者 講演1 臨床腫瘍科 主任部長 / 篠崎 勝則  
講演2 消化器・胆膵内科 部長 / 芹川 正浩  
講演3 放射線治療科 部長 / 土井 歓子  
対象 医療従事者及びその関係者  
問合せ先 総務課管理係(担当/安原) ☎082-254-1818  
参加申込 詳しくは当院HPをご参照ください



# 卒後臨床研修評価機構 JCEP を受審し、認定されました!!

プログラム責任者/福原 里恵

当院は医学部卒業後、医師国家試験を合格したフレッシュな臨床研修医を2年間育成・指導する基幹型臨床研修病院です。病院の玄関のみならず、至る所にポスター(図1)を貼付し、皆様にご理解をお願いしています。

臨床研修の理念は(図2)の通りであり、医療現場における自身の医療行為や言動を指導医や指導者および自らも振り返り、日々資質・能力を高め、患者さんにとって最善の利益となる医療を提供できるよう育成と成長を目指しています。

また、研修医が患者さんや社会のニーズに対応できているのかを評価するために、救急隊、千田町夜間急病センター、一部の診療科では患者さんからも評価していただいています。

JCEP 受審とは、臨床研修プログラムを評価するためにサーベイヤーが病院を訪問し、書類審査、面接調査、指導医・研修医へのインタビュー、現場確認のうえ、第三者による様々な指摘によって今後のより良い人材育成につながる仕組みです。臨床研修医を病院全体で育てる文化が醸成されると、結果的に病院全体の質向上および患者さんへのより良い医療の提供につながるため、第三者による評価は欠かせません。

このため、私たちは JCEP 受審を決意し、10月28日、3名のサーベイヤーをお迎えし、1日かけて当院の研修体制を確認していただきました。11月28日に無事認定の結果、『JCEP 認定証』が届きました。85の評価項目のうち、81%は「適切」と判断されましたが、まだまだ改善すべき点が指摘されました。これらの指摘事項は、院長をはじめとし、臨床研修管理委員会、院内各部署、指導医、指導者、研修医とで確認し、さらなる改善に向けて邁進する所存です。

これからも臨床研修に対して病院全体で真摯に取り組み、患者さんおよび社会に貢献できる人材育成を行っていきたいと思います。

地域のクリニックや病院および消防関係者のみなさま、患者のみなさまから忌憚のないご意見やご指導に加え、若き研修医等にエールを送っていただけますと幸いです。



JCEP 認定証

## 当院は、基幹型臨床研修病院です

広島県の基幹病院として  
当院の理念および国が定める  
臨床研修の目標に沿って次世代を担う人材育成に  
力を入れています。

### 臨床研修病院の理念

- (1) 病院の理念  
患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。
- (2) 臨床研修の理念  
臨床研修プログラムを通じて、医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)および医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付け、病棟・外来・救急・地域医療などの場面でプライマリ・ケアを実践できる医師を育成します。

研修医には資格を持った指導医が指導をしております。成長を温かく見守っていただければ幸いです。お気づきの点があれば、遠慮なく申し出てください。



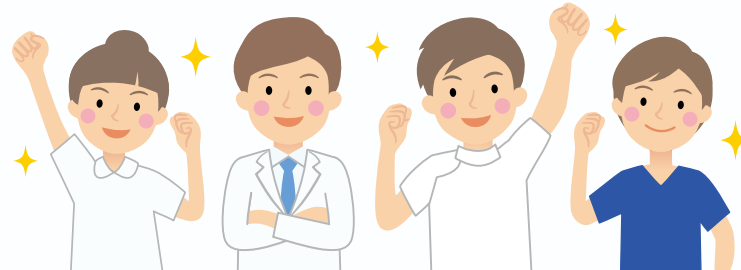
県立広島病院  
医科臨床研修管理委員会委員長

## 臨床研修の基本理念

臨床研修は、医師が、医師としての人格を涵養\* (かんよう) し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

(医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令)

(図2) 臨床研修の基本理念 \*水が土に自然にしみ込むように、徐々に養い育てる



(図1) 院内ポスター

# 外科医の独り言...no.159

## — クマの独り言 —

クマが秋田市のスーパーに出没して従業員に負傷を負わせ、その後もスーパー内に居座ったという報道がテレビやネットニュースで話題になりました。近隣住民の皆さんやスーパーの従業員、関係者の皆さんが大変怖い思いをされたこととお察しします。近年の天候不順により山にクマの餌が不足して、最近クマが人里にも出没するという話を良く聞きますが、さすがに市街地のスーパー内に現れ、その後55時間も居座ったとなると、これはやはり大きなニュースです。このクマは体長1.1メートル、体重69kgの雌の成獣のツキノワグマだったそうです。

人間の側から考えると、一つ間違えば多数の負傷者が出てもおかしくない大変危険な状況であり、一刻も早く捕獲してほしいと思うのは当然です。またスーパーの経営者にとっては、クマが立てこもっている間は営業ができず、スーパーの中で食べ散らかされたら食品のロス、後片づけや消毒のコストなどを考えると大損失です。そしてこの騒動で受けた損害賠償を言うて行くところがありません。泣き寝入りするしかないのです。

クマの側から考えると、冬眠間近になっても食料がなく、このままでは冬眠できそうにないと焦っていたかもしれません。そして、気が付いたら市街地まで出てきてしまっていた、ということでしょうか。おまけにスーパーに侵入してみたら肉や魚、果物が大量に置いてあり、天国のような所に迷い込んで、「ラッキー!」とほくそ笑んでいたかもしれません。あまりにも食べきれないほどの食糧に囲まれて、仲間のクマを呼んで来ようか、あるいはこのままここで冬眠しようかなどと迷っていたかもしれません。

また人間の側に戻りますが、クマを生け捕りにするために、スーパーの入口2か所に箱罠を仕掛けました。広いスーパーの入口2か所に箱罠を仕掛けただけで、捕獲できるとは思えません。なぜ麻醉銃で撃って眠らせて捕獲しないのか、

という批判の電話やメールが沢山来たようです。現場にいない人は気楽なことを言います。麻醉が効くまで最低数分かかります。その間にクマが興奮して大暴れしたら大変なことになるということを、わかってください。結局、箱罠にクマ自らが入ってくれるのを待つしかなかったのです。ましてや住宅街にあるスーパーの中で猟銃をぶっ放す許可なんて出るわけありません。万が一クマではなく人間に当たったら許可した人が責任を取らなければなりません。クマに当たったとしても弾が貫通して壁に跳ね返って人間に当たる可能性もあります。そうすると猟師さんは銃の免許取り消しになるだけでは済みません。数千円の安い日当で雇われて、それこそ踏んだり蹴ったりです。

結局、クマがスーパー内のバックヤードに入っているのが確認され、箱罠をバックヤードの入り口に動かして、クマの行動範囲を狭めたことによりクマは箱罠に入りました。そのまま麻醉銃で撃たれておとなしくなったところで電気ショックを使って苦痛がないように駆除されたそうです。

ここに至って、人間側の意見が二つに分かれたようです。何も殺さなくても良いのにといい意見と、餌が沢山あるということを学習したクマを山に放つとすぐに舞い戻ってくるので駆除して良かったとする意見です。前者は他県の人たちの意見で、後者は近隣の住民の意見でした。どちらが正しいのかはわかりませんが、私が気になったのは、クマが思い残すことがないくらいにお腹いっぱい食べた後に駆除されたのかなということだけです。

ふと気づけば、今回の独り言は医療に全く関係ないことになってしまいましたので、タイトルを「クマの独り言」とさせていただきました。



院長/板本 敏行

## ご意見箱

### 『意見書』を入れる場所について 貴重なご意見をありがとうございました。

『意見書』を入れる場所がわかりづらい。『意見書』の一番下に「1階ロビー」と記載があるが「1階ロビーにある電話の横」など、分かりやすくなる目印を記載してほしい。



頂いたご意見を受け、中央棟1階ロビーにあるご意見箱は、公衆電話の隣にあること、また、ご意見箱が見当たらない場合は、お近くの病院スタッフにお尋ねいただきたいことを、意見書の記入用紙に付け加えました。

